

講義科目名称： 人間学

ナンバリング： N-12-01-D

英文科目名称： Anthropology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位	選択
担当教員			
荒井優 (marai@tcn.ac.jp)			
授業形態	時間数		科目区分
講義	15時間		基礎分野【人文科学】
添付ファイル			

特記事項	<p>資格選択区分</p> <input type="checkbox"/> 看護師資格必修 <input type="checkbox"/> 保健師資格必修 <input type="checkbox"/> 養護教諭二種免許必修 <input type="checkbox"/> 看護師資格選択必修 <input type="checkbox"/> 保健師資格選択必修 <input type="checkbox"/> 養護教諭二種免許選択必修
	<p>ディプロマポリシーとの関連性</p> <input type="checkbox"/> 広い視野と人を思いやる豊かな人間性をはぐくみ、人生の問題や課題に誠実に向き合う力 <input checked="" type="checkbox"/> 高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力 <input type="checkbox"/> 専門的な基礎知識と論理的思考にもとづいて看護実践する力 <input type="checkbox"/> チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力 <input type="checkbox"/> 病院から地域・在宅へと療養の場が移るなかで、地域で暮らす人びとの健康と生活を支え、地域とともに歩む力
	<p>実務経験のある教員による授業科目の配置</p> <input type="radio"/> 担当している <input checked="" type="radio"/> 担当していない
	<p>実務経験を授業科目にどのように活かしているか</p>
	<p>科目等履修生ほか受入（受入可能人数）</p> <input checked="" type="radio"/> 受入可 <input type="radio"/> 受入否
	<p>受入可能人数 若干名</p>

授業の概要	「人間とは何か」、「人間はどう生きるべきか」という問いは、古来から今日にいたる永遠のテーマである。授業では、「人間とは何か」「人生の意味とは何か」「死にどう向き合うか」について、自分の人生を生きるための手がかりとなるような人間観・人生観・価値観を取りあげる。看護職としての自己形成・人生形成のヒントにしてほしい。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で紹介する思想家の人間観を理解し、自分の人間観を比較し再確認する。 ・自分と自分の人生に向き合い、これからの自己形成・人生形成のヒントを得る。 ・病気や障がい・不幸・災難にみまわれた人生は生きる意味を失うのか、自分なりの考えを整理する。 					
授業計画	回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
	1	「人間学」についてガイダンス	講義	「人間学」について理解し、自分自身の人生観・価値観について振り返ってみる。	2時間	荒井
	2	ユングの深層心理(1)意識と無意識(2)ペルソナ	講義	「私」とは何か、「無意識」とは何か、自分なりに考えてみる。	2時間	荒井
	3	ユングの深層心理(3)アニメ・アニメス(恋愛論)(4)自己	講義	自分に向き合いながら、授業内容を理解し、自分の経験をレポートにまとめる。	2時間	荒井
	4	キューブラー=ロスの「死ぬ瞬間」～死に逝く人の心理的プロセス(1)	講義	死に直面した時の人の心理について、またキューブラー=ロスについて調べておく。	2時間	荒井
	5	キューブラー=ロスの「死ぬ瞬間」～死に逝く人の心理的プロセス(2)	講義	「寄り添い」とは何かに注目して、授業内容を理解し、自分の経験をレポートにまとめる。	2時間	荒井
	6	看護における「寄り添い」について	講義	「寄り添い」とはどういう行為か、具体的実践を考える。それによって自分がどう変わるのか？	2時間	荒井
	7	フランクルの「人生の意味」(1)人生の意味(2)2つの座標	講義	フランクルの生涯について調べておいた上で授業に臨む。	2時間	荒井

	8	フランクルの「人生の意味」 (3) コペルニクス的転回(4) 人生の3つの価値(5) 超意味	講義	自分の価値観・人生観に向き合いながら、授業内容を理解し、自分の経験をレポートにまとめる。	2時間	荒井
先行履修科目						
テキスト	授業で使用するスライドは、プリント配布する。					
参考文献	参考文献は授業中に適宜紹介する。					
評価方法	レポート70%、提出物30%を総合的に評価する。					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出されたレポートは抜粋集を配布し理解を深める。またレポート・提出物のなかから授業理解のために参考となる事例を授業中に紹介し（プライバシーに十分に配慮する）、授業内容のより深い理解に役立てる。					
備考	人生の不幸や人生の苦しみは、往々にして「自分」自身に由来していることが多い。価値観が変わることによって自分自身が変わり、自分の人生も変わる。哲学者や心理学者、精神医学者などの人間観を通して、まずは自分自身に向き合おう。					